# メータオ・クリニック支援の会（ＪＡＭ）
# 会報メール　第 124 号
# 〔2021 年 2 月発行〕

ＮＰＯ法人メータオ・クリニック支援の会（JAM）支援者の皆様

いつもご支援いただき、誠にありがとうございます。
JAM より、2021 年 2 月号の会報をお送りします。

JAM は 2008 年 3 月に発足された NGO です。ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院、メータオ・クリニックの活動を支援する目的で設立されました。
支援者の皆様へ JAM の最新の活動を２カ月に一度、会報メールにて発信いたします。

今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

＜目次＞

現地（メソト）から

ミャンマーのクーデターに対するメータオ・クリニックの声明

メータオ・クリニック支援の会（JAM）としての考え

国内から

編集後記

次号の予定

# 現地（メソト）から

【JAM 現地派遣員　有高 奈々絵】

皆さまお久しぶりです、再び JAM 現地派遣員となった有高 奈々絵です。私は新型コロナウイルス（COVID-19）パンデミックの影響で昨年 3 月末にタイから急遽帰国しましたが、タイ政府が外国人観光客の受け入れを再開したため、今年 1 月にタイに再入国しました。閑散とした羽田空港を搭乗率 10%ぐらいの JAL で飛び立ち、バンコクのスワンナプーム空港で個人防護具を身に着けた、乗客より多数の空港スタッフの出迎えを受けました（写真①）。

バンコクのホテルでの 2 週間の隔離および COVID-19 の 2 回の PCR 検査を経て、2 月 7 日に懐かしいメソトに到着し、現在メータオ･クリニックでの最初の 10 日間を終えたところです。タイは昨年 12 月まで COVID-19 の累計患者数は 4,000 人ほどで国内感染をほぼ完全に封じ込めていましたが、その後患者数が急増（2 月 16 日現在　24,786 人）したためバンコクもメソトも飲食店などの営業制限が敷かれ、人通りはかなり減っています。とくにメソトでは 2 月初めに Burmese market などで少なくとも 14 人の感染者が報告され、大規模な濃厚接触者の調査、マーケットの閉鎖、やっと再開された学校の再休校が行われています。そして 2 月 13 日のメソトを含むターク県の新規感染者数は 52 人と同日のタイ全体での感染者の半数を占め、過去のデータからおそらくその多くはメソトでの発生です。実はタイでこの 2 か月に急増した感染のほとんどは、バンコクに隣接するサムットサコーン県のとある水産市場で起きたミャンマー人移民の大クラスターに起因しています。そこでの徹底的な濃厚接触者の調査と隔離、県を超えた移動の禁止によりやっと発生者数が減ってきたところに、ターク県がサムットサコーン県を抜いて全国一位に躍り出たというのは非常に象徴的なことで、多くのタイ人はコロナはミャンマー人がもたらした病気という認識を強めるであろうと思います。

危機は着実に忍び寄っていますが、メータオ・クリニックは今のところ非常に落ち着いています。国境閉鎖のためミャンマーからの患者さんがゼロで患者数が減っていること、受付で全訪問者が体温測定、手指消毒をすること（写真②）、COVID-19 専用のトリアージ（重症度による選別）エリア、外来、病棟が稼働していること、多くのスタッフがマスクをしていること以外は、スタッフの笑顔も緩やかな時間の流れもこれまで通りです（写真③）。17 人のスタッフからなる COVID-19 専属チームが、受付から専用病棟までの業務を担い、彼らのキッチンや休憩室も他のスタッフとは分けられています。個人防護具に関しては N95 マスクという空気感染予防用マスク、ガウン、手袋は使い捨て、フェイスシールドも 5 回使ったら捨てる、感染性廃棄物は一般廃棄物と分別するなど、感染対策はかなり入念になされています。惜しむらくは時々マスクから鼻が出ていたり、マスクをしていないスタッフがいること、またミャンマーではみんなで食事を共にする、分かち合うことが伝統文化として大切にされているため、院内でもスタッフ何人かが一緒に食事を摂っていることです。日本でも院内感染、施設内感染の大きな原因としてスタッフが狭い休憩室で一緒に食事することが挙げられており、メソトでの市中感染も増えてきた今、是非スタッフにそのリスクを理解して欲しいのですが、あまりに大切かつ当然の習慣のため、知識はあっても確実に実践するにはハードルが高そうです。アクリル板で一人ずつ、テーブルを仕切るのが現実的かもと思い始めています。

そんな矢先、メソトで COVID-19 感染者の入院を一手に引き受けているメソト総合病院のベッドが不足し始めたようで、2 月 12 日にタイ保健省より若年で基礎疾患のない、つまり重症化しにくいと考えられる無症状感染者をメータオ・クリニックで入院させて欲しい、しかも 100 床準備して欲しいという驚きの要請が舞い込みました。対象となるのはもちろん不法移民で、メソト病院としてはタイ人およびタイの保険を持つ合法移民を優先的に入院させたいそうで、確かにこれまでメソトではそのような役割分担が行われて来ました。メータオ・クリニックには昨年 1 年間で 1,224 人の COVID-19 が疑われる患者さんが来院し、うち 458 人が PCR を受け、157 人が専用病棟に入院しましたが、その中で PCR 陽性となった確定例は幸いゼロでした。つまり診療態勢は整えたもののまだ本物の患者さんは経験していない段階であり、いきなり多くの確定例を受け入れるのには不安を拭えませんが、すでにシンシア先生が指揮を執り病棟拡充準備（の準備）が始まりました。私は帰国後、都内の感染症指定医療機関で COVID-19 診療を行ってきたため、何とか移民コミュニティのお役に立つべく、スタッフと協力しながら感染対策の徹底に努めたいと思います。

そしてご存知の通り、ミャンマーでは 2021 年 2 月 1 日に COVID-19 以上の大事件が起きました。1962 年、1988 年に続く、33 年ぶり 3 回目の軍によるクーデターです。後掲のイラストにあるように、ミャンマーでは 1962 年のクーデターのあと、2011 年の民政移管、2015 年のアウンサンスーチー率いる国民民主連盟（NLD）による政権交代まで、半世紀以上軍事政権が続いていました。2015 年以降も連邦議会の議席の 1/4 は軍に割り当てられるなど軍に都合の良い憲法により、軍の政府への支配力や軍関連企業を通じた利権は守られていました。しかし NLD が軍の権益を制限する憲法改正を試みたこともあり、昨年 11 月の選挙で NLD が予想以上の圧勝をすると、軍は影響力や利権を失うことを恐れてか選挙の不正を訴え、ついに 2 月 1 日にアウンサンスーチー国家顧問と大統領はじめ NLD の多数の幹部や作家などの文化人を拘束し、一夜にして全権を掌握しました。

この 10 年間で民主主義や言論の自由、経済成長を体験したミャンマーの人々は軍政への逆戻りを拒否し、SNS を駆使して非暴力に徹した大規模抗議デモ（写真④）や公立病院の医療者から始まったストライキで対抗しています。真っ先に医療者がストを始めたのは私には驚きでしたが、このストは市民、特に公務員による不服従運動 civil disobedience movement（CDM）と呼ばれるようになり、役所や教育機関、金融機関、交通機関などの公務員にも広がったため、多くの行政機能、経済活動が停止し軍は対応に苦慮しています（COVID-19 の新規感染者数も地域によっては報告されなくなっています）。

軍はインターネット遮断や夜間外出禁止令、集会禁止令などで規制を強め、8 日にはメソト対岸のミャワディでデモ隊を威嚇するための発砲がありました。9 日には 19 歳の女性が実弾で撃たれ、後日死亡しました。その後デモや CDM のリーダー、選挙管理委員会関係者などが夜間に逮捕されることが相次ぐようになり、誰かが逮捕されそうになると鍋を叩いて鳴らし、その方向に多数の近隣住民が集まって逮捕を阻止する動きが出ています。12 日には刑務所の受刑者 2 万人以上が“恩赦“として釈放されましたが、これは治安を悪化させ国民の不安を増すため、またデモに紛れてトラブルを起こさせ軍に武力弾圧の口実を与えるためではないかと懸念されており、実際にその後放火や放火未遂が多発していると報道されています。また 13 日には裁判所の許可のない逮捕、家宅捜査、通信データなどの押収、24 時間以上の拘束を禁止した法律の一時停止が発表され、恣意的な逮捕、拘留が合法化されました。14 日には北部ミッチーナでデモ隊に向けての発砲があり、記者を含む複数の逮捕者が出ました。15 日以降連日夜間に再び全土のインターネットが遮断され、またヤンゴンなど主要都市に初めて装甲車が多数配置され（写真⑤）、マンダレーなどで市民への発砲や逮捕が相次ぐなど、大規模な武力行使の危険がこれまで以上に高まっています。権力、特に武力を持つ人間は権力を守るためにここまでするのかとぞっとしますが、今の軍のやり方は 1988 年の民主化運動弾圧の時と同じとも言われています。

各少数民族もヤンゴンなどで反軍政デモに集団で参加し、カレン州でも同様の動きが報道されています（写真⑥）が、ここメソトは静かで、メータオ・クリニックも含めいつも通りの時間が流れています。ただクリニックでも町なかの店先でも多くの人がフェイスブックでミャンマー情勢を注視しており、何人かに話を聞いてみました。あるカレン人メディックは、クーデター以降モン州の家族と連絡が取れない、軍は自分たちだけで国内の資源を独占してきた、停戦協定以降もロヒンギャを含め少数民族を弾圧してきたのは NLD ではなく軍だと、軍に対する深い不信を語ってくれました。NLD は軍の圧力を受けながらも国を良くしたが、今後はまた何年も軍政が続くだろうと、諦め気味に話すカレン人メディックもいました。クリニックに週 2 回診療に来るビルマ人医師は、マンダレーで彼の友人医師がデモ隊の先頭に立ち、医学生とともにスローガンを叫びながら行進しているライブ映像を見せてくれました。彼は NLD など特定の政党は支持していないが、今軍を止めなければミャンマーは過去に逆戻りする、そしてそれが続くのは避けなければならないと話していました。1988 年の民主化弾圧で国を離れ、30 年間アフリカで働いた後に最近はメソトで暮らしているというビルマ人医師が今メータオクリニックで働いていており、彼は在外ミャンマー人のネットワークを生かして CDM を支援する寄付を募り、送金の準備を進めているそうです。また自宅近くの食堂を経営しているカレン人は 30 年ほど前にカレン州からタイ側のジャングルに逃げてきたそうで、ビルマ人は誰がトップになってもカレン人とは争いばかりで好きではないが、軍はもっと嫌いと話していました。裁判所の許可なく逮捕できるようにするという軍の発表は、カレン州のクリニックで働いているカレン人医師の友人が直後に教えてくれました。あまりの内容にフェイクニュースではと思いましたが、翌日マスメディアでも報道され事実と分かりました。いつも穏やかな彼女が、軍はこれまでも同じことをしてきた、my feeling is so confused, sad, angry, hate, hopeless.とメッセージを送ってきて、返す言葉もない自分のあまりの無力さに愕然としました。

国軍兵士は 40 万人規模だそうで、ミャンマーの推定人口 5400 万人の 1%弱です。その 1%弱の、さらにその一握りの支配層が圧倒的な武力と民主化で潤った軍関連企業による資金力をもって、一般市民の非暴力の抵抗を問答無用で抑圧しています。その絶対的な非対称性の前で、人権、民主主義、自由、平等といった言葉がいかに無力か、それらを他国に比べある程度は享受できる国に暮らしてきた私には衝撃的ですが、それがここから 5km しか離れていない、国境の向こう側の現実なのです。

私にできることはこの危機的な状況を一人でも多くの人に伝えること、ミャンマーの人々に対し、世界にはあなたたちに味方する人が確実に存在すると伝えること、あとは軍に圧力をかけるよう自国政府や国際機関宛の署名活動に参加すること程度しかありません。どこまで意味があるのかは分かりませんがゼロではないと信じるしかなく、そしてミャンマーがこれ以上の犠牲を払うことなく、ほとんどの国民の望む民主的な国に戻ることを祈るだけです。

写真①　SF チックなスワンナプーム空港

写真②　受付でまず体温測定と手指のアルコール消毒

写真③　シンシア先生たちと

写真④　1988 年と 2021 年のデモの様子

写真⑤　装甲車の前で CDM のプラカードを掲げるヤンゴンのデモ参加者。VOA Burmese News より

写真⑥　カレン州でカレン旗を掲げ、反軍政のデモを行う人々。カレン民族同盟 Facebook より

# 今回のミャンマーでのクーデターに関し、メータオ・クリニックは、声明を出しました。

以下は、クリニックの声明を和訳したものです。

2021 年 2 月 4 日

**選挙で選出された NLD 政府に対するミャンマー軍(タマドー)のクーデター**
**不法な権力の掌握と（ミャンマー軍への）不処罰行為への反対声明**

私たち、ビルマの民族コミュニティ内の脆弱で紛争により影響を受けた人々と共に取り組んでいる民族の保健組織は、この 2 月 1 日の軍事クーデターとそれに付随する選挙で選出された国の代表への暴挙、また人権活動家、市民社会メンバーに対する暴力行為を強く非難します。

私たちは、軍が恣意的に拘留したすべての人々を直ちに無条件に釈放し、彼らが新しい正式に選挙で選出された議員として議会を再招集する事を要求します。
私たちは、特に NLD などの政党に拘留されたすべての人々に対してすべての告訴を取り下げることを要求します。

私たちは、市民社会のすべてのメンバーがいかなる暴力からも保護されることを要求します。

私たちは、市民社会のメンバーによって行われている市民的不服従運動(CDM)を強く支持します。そして私たちは、軍事クーデターを非難する市民的不服従の行為に現在従事している医療従事者と連帯の意を表します。

私たちは、ミャンマー軍によるビルマの人々に対する軍事化と暴力の停止を要求します。特に民族コミュニティでは、最も脆弱な国に不可欠であるはずの社会サービスへのアクセスを否認し続けているミャンマー軍部の暴挙、私たちの各地域において不均衡なほどの病や苦しみ、人々の死を裏付ける根拠となっている暴力の停止を要求します。

私たちは、特にクーデターと国内で進行中の COVID-19 危機によって引き起こされた不確実性に照らして、この国への人道支援が継続され、拡大されることを要求します。
ビルマで COVID-19 を管理するための今後のイニシアチブを含む、サービスへのより公平なアクセスを確保するため、ビルマで最も脆弱な人々と協力して活動しているコミュニティ組織を含めた人道支援の選択肢が拡大される必要があります。

私たちは、軍部に兵舎に戻り、ビルマの人々への暴力をやめるよう圧力をかけるための包括的な応答を求め強く主張します。
私たちは、すべての政党など関係当事者を建設的な政治的対話に参加させることを強く主張します。

私たちは、ビルマのすべての人々がコミュニケーションと情報への自由で公平で完全なアクセスを保持することを強く主張します。
私たちは、民主主義への復帰を求める私たちの叫びを支持するよう国際社会に強く要請します。

声明発出元：
ビルマ医師会代表　ソーネィトゥ
バックパックヘルスワーカーチーム代表　ソーウィンジョウ
メータオ・クリニック院長　シンシア・マウン

（日本語翻訳：文責　メータオ・クリニック支援の会）

## メータオ・クリニック支援の会（JAM）としての考え

ミャンマー軍のクーデターを受けて

2021 年 2 月 14 日

現在ミャンマーは、2021 年 2 月 1 日に発生した国軍のクーデターにより危機的な状況にあります。メータオ・クリニック支援の会(以下、JAM)は非暴力、不服従をもって抵抗する市民への構造的かつ非情な暴力に、深く心を痛めています。

メータオ・クリニックなどの緊急声明を受け、JAM はいかなる暴力行為が発生しても民族、人種、宗教、信条、政治的立場の如何に関わらず、必要な人々へ必要な医療が提供されるよう、メータオ・クリニックを通じた保健医療の人道支援を継続します。

JAM はメータオ・クリニックおよび「誰一人として取り残さない」活動を支える人々と共にあり、これからも国際人道支援、保健医療技術支援を継続してまいります。

JAM 一同

## 国内から

今回のミャンマーでの軍事クーデターのことを簡単に説明したイラストをご紹介します。これは JAM メンバーでもあり、現在は他の NGO 職員としてミャンマー国内で働いている Nishi さんが原案を作成したものです。イラストと、寄稿してくださった Nishi さんの記事もお読みください。

# ＼ビジュアルでわかる！／ ミャンマー 軍事クーデター

1

## 今、ミャンマーでは

毎晩8時、市民は一斉に鍋を叩き、軍への抗議の意志を確かめ合う。

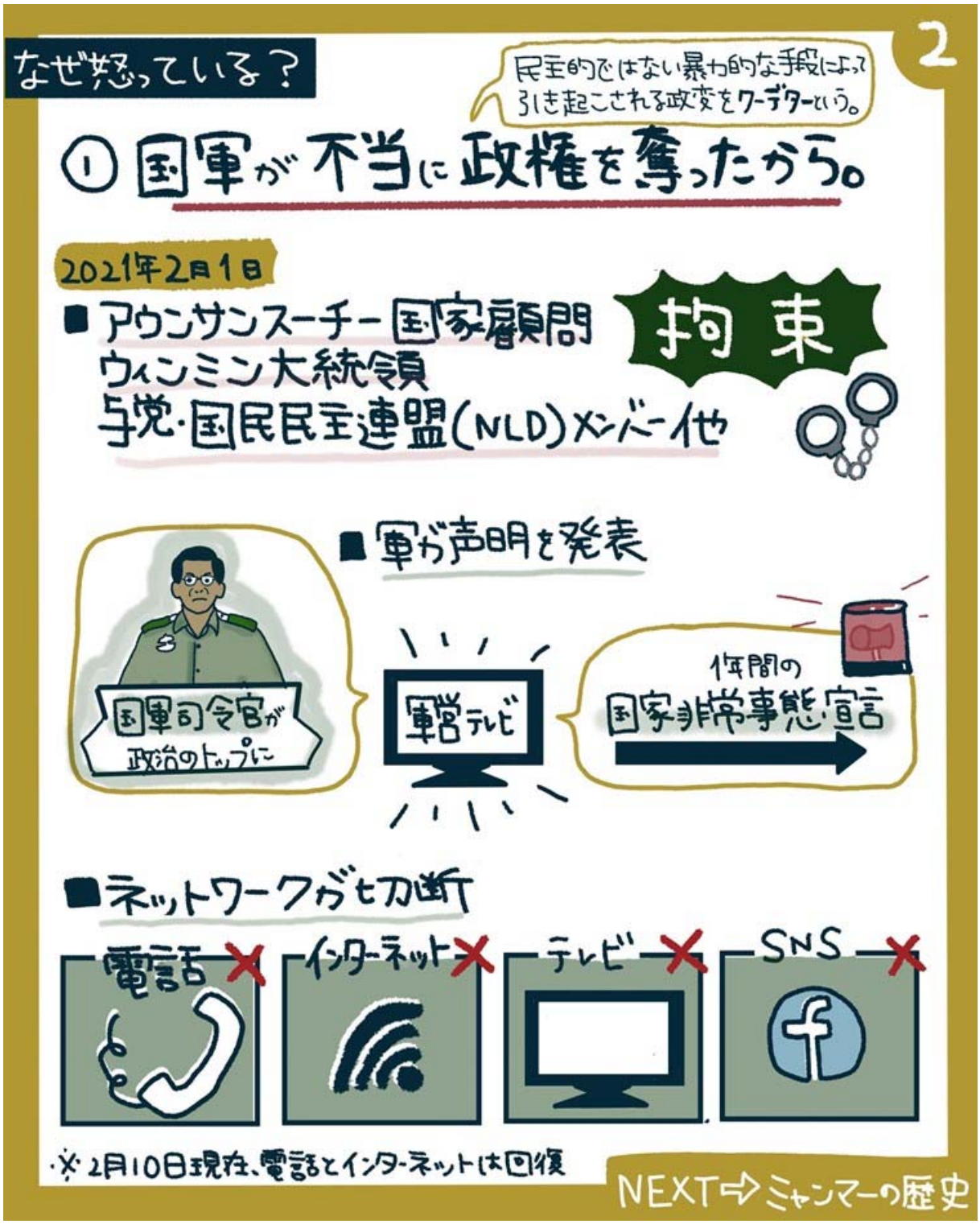
写真：twitter より

## 日本でも

写真：Yuhi Hata

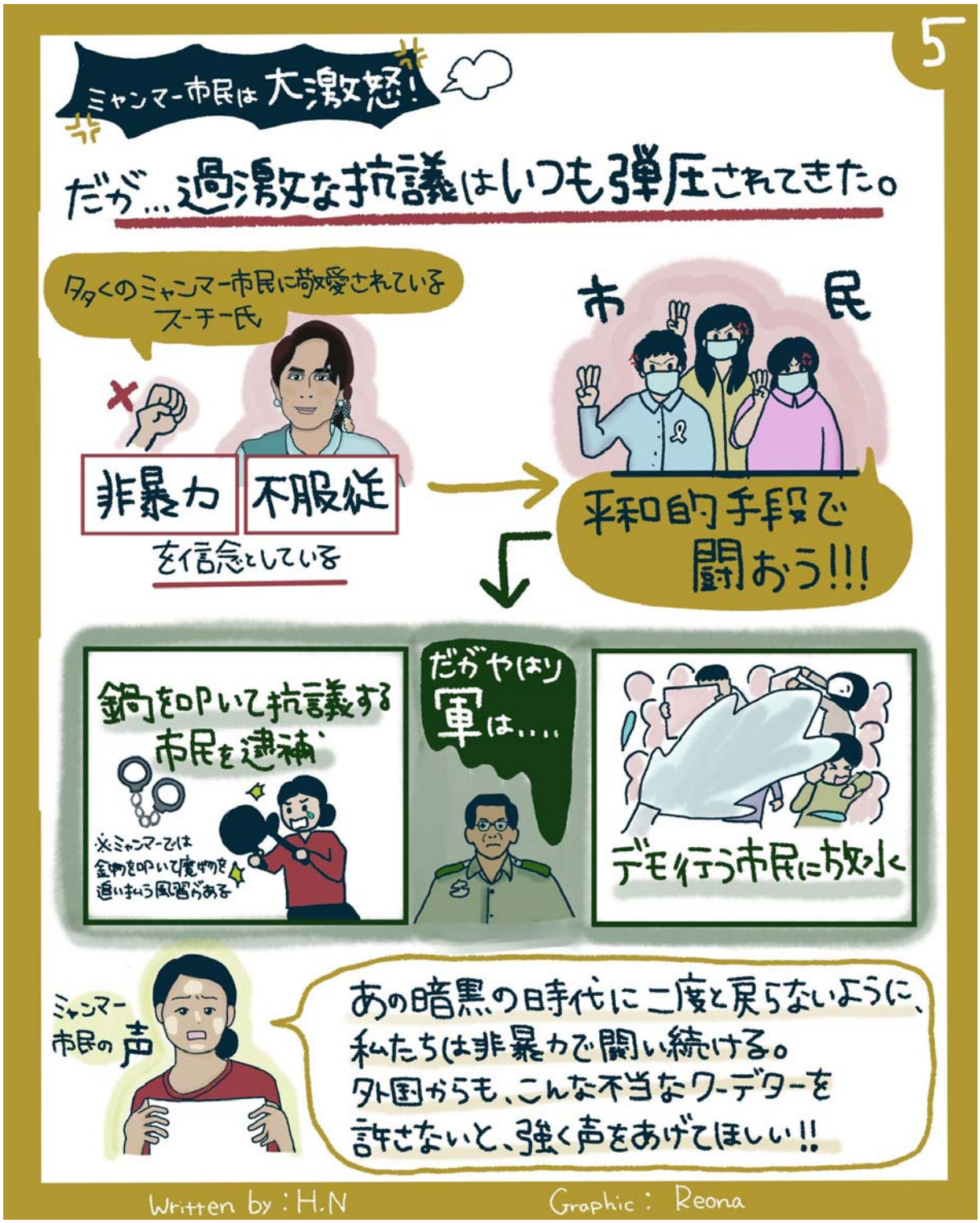
## ミャンマー市民が怒っている。

NEXT ⇨ なぜ怒っている？


なぜ怒っている？
2
民主的ではない暴力的な手段によって引き起こされる政変をクーデターという。
① 国軍が不当に政権を奪ったから。
2021年2月1日
■アウンサンスーチー国家顧問
ウィンミン大統領
与党・国民民主連盟(NLD)メンバー他
拘束
■軍が声明を発表
国軍司令官が政治のトップに
軍営テレビ
1年間の国家非常事態宣言
■ネットワークが切断
電話
インターネット
テレビ
SNS
※2月10日現在、電話とインターネットは回復
NEXT⇨ミャンマーの歴史

なぜ怒っている？
3
②国軍の独裁支配下で長年苦しんできたから。
ミャンマーの歴史
1962年
ワーデターで軍事独裁政権に
貧困
市民
不平等
軍
豪遊
1988年
8888民主化運動
凄惨な鎮圧
厳しい監視社会に…
国民民主連盟(NLD)
結成
大学生を中心に
大規模なデモ
民主化運動のリーダー
アウンサンスーチー氏
集会
批判
15年間あまり
自宅軟禁
夜間の
外出
1990年
選挙
NLDが圧勝
軍は認めず
NO
NEXT ⇨ ミャンマーの歴史続き

ミャンマーの歴史
4
軍に抗える暮らし
2007年
サフラン革命
僧侶までが加わった
大規模なデモ
弾圧
発砲
2008年
軍政権による
新憲法制定
簡単に言うと……
軍が強大な
権力を
持つことを保証
記憶に残る
暗黒の時代
2015年
NLDが
圧勝!!
選挙
軍政が
終わった!
スーチー氏
国家顧問に
2020年
NLDが
再び圧勝!!
選挙
上・下院 計664議席
NLD 396議席
軍 166議席
少数民族政党
旧軍事政権系 野党
だが…
2020年2月1日
軍
この選挙は不正だ!
クーデター
・スーチー国家顧問などを拘束
国のすべての権力を
軍が再び握る…!
NEXT ⇨ ミャンマー市民大激怒!! だが…




## ミャンマー国内の様子

【JAM 会員　ペンネーム Nishi】

2 月 1 日早朝、私は友人からのメッセージで目を覚ましました。
「Nishi、スーチーさんが捕まったよ」
絶句しました。
まさかのクーデター。噂はありましたが、まさか、本当にやるとは。

すぐに友人に電話をかけようとしましたが、もうすでに電話回線は遮断。インターネットも朝８時頃にはつながらなくなりました。（その日のうちに一旦回復。その後再び遮断されることもありましたが、2 月 12 日現在はつながっています）

ミャンマー人はさぞ憤ってるに違いない。暴徒化するんじゃないだろうか。
そんなことを思いながら、恐る恐る外に出てみると、町の様子はいつもとまったく変わりませんでした。人々もにこやかです。「あれ、なんでいつも通りなの？」と、拍子抜けしたような気持ちで過ごしました。

翌２日。朝のオンラインミーティングでスタッフの顔を見たときに、あぁ、やはり怒っていたのだ、と知りました。彼女は無表情のまま「憤りで、眠れなかった」と言いました。別のスタッフも「ムカつきすぎて、仕事どころじゃない」と訴えます。Facebook 上では、ミャンマー人たちが口々に怒りを表現し、反軍政のメッセージが秒単位で投稿されていきます。夜８時には、一斉に抗議の鍋叩きが始まりました。一見何も変わらなかった町に、1 日半の沈黙を破って、はじめて聞こえてきた抵抗運動の音でした。

4 日には、公務員が職務をボイコットする不服従運動（Civil Disobedience Movement）が始まりました。政府の直接雇用である公務員たちは「自分たちが選挙で選んだ政権のもとでしか働かない」と明確に意思表示をしたのです。

先頭を切ったのは、なんと医療者でした。コロナ禍のこの時期に、病院の機能が止まることは、軍政にとって大ダメージだとわかっていたからです。職務から離れた医療者は、Facebook で「●●地区の人は、私が診ます。電話番号は xxxx…」などとシェアし続けていました。誰も、職務放棄などしたくはないのです。

大規模なデモが始まったのは、6 日（土）。軍事政権側は、組織的な動きを阻もうと、週末はインターネットを完全に遮断します。しかし市民たちは町のランドマークに大挙して押し寄せ、声を上げ続けました。

月曜日になってもその勢いはおさまらず、ヤンゴンだけでなく、ミャンマー中のありとあらゆる地域で、非暴力のデモが展開されていきます。

ここに、月曜日に私が Facebook に投稿した文章を載せます。

_____引用ここから_____

怒りに任せて書きます。

週末に盛り上がったデモは、平日になって落ち着くどころか、ますます拡大した。ミャンマー人たちは、仕事するのをやめて、町に出た。うちのスタッフも、朝からでかけていった。

大勢の人が、車が、街の中心部に向かった。クラクションを鳴らし、スーチーさんの写真を掲げ、３本指をたてて抵抗の意志を示しながら。

ヤンゴンだけじゃない。ミャンマー中の、山岳地帯や、乾燥地域や、海岸沿いで。何万人、何十万人もの人が集まった。
誰も暴動も起こさなかった。ただ、軍政への抵抗と、民主化を訴えた。

それは、もしかしてこれが続けばスーチーさんが解放されて、民主国家に戻るんじゃないか、と明るい未来を思い描けるような、希望に満ちた光景だった。

しかし、夕方。ミャンマー国軍が、アナウンスを出した。
クーデターに抗議する市民に対して「国家の安定と治安を混乱させる行為を防ぐためには法的措置をとる」と。

そして直後、一部の地域で、新しい法令が発表された。
・５人以上で集まらないこと。
・公共の場で集会を開かないこと。
・夜８時以降は、外出しないこと。

これはつまり、今日みたいにデモをしたら、明日は弾圧（または逮捕）しますよ、という意味だ。唖然としているうちに、次々にほかの地域でも同じ法令が出され始める。軍事独裁政権というのはこういうことか・・・。血が沸騰した。

＝＝＝

ミャンマー人の事務所長に電話をかけて「明日は全員出勤しないで」と伝える。
私の震える声に気づいた所長は「I'm sorry」と言った。こんなときにミャンマーにいるなんて、、、君は日本人で、ミャンマーのために働いているのにね。

私をいたわってないで、もっと怒れよ！！と思った。
でも、わかっている。所長だって、悔しくないはずがない。軍政時代がどんなものだったか、話してくれたときの彼の言葉を私は覚えている。

それでも所長は「以前の軍事独裁政権と同じだよ。これがミャンマー国軍なんだ」と穏やかに言った。

私は何もしらない日本人だけど、経済発展した国に生まれ、民主主義の中で呼吸をしてきた。自分たちのことは、自分たちで決められる国だった。
だからこれがどんなに異常で、憤るべきことか、わかる。

＝＝中略＝＝

週末にインターネットを遮断された時、スタッフは電話でこう言っていた。
「今ミャンマーで起きていることを、世界はちゃんと見てくれているのかな」

ミャンマー人は、もうすぐ完全に手足を縛られてしまう。どうか忘れずに、見ていてほしい。日本政府に、ミャンマー国軍を政府として認めるなと、訴えてほしい。

同時に、日本政府に嘆願しつづける在日ミャンマー人を、サポートしてほしい。
在日ミャンマー人が、コロナ禍に非常識だと批判され、申し訳ないと謝りながら、それでも集まって声を上げる理由に、どうか思いを馳せてほしい。

＿＿＿＿引用ここまで＿＿＿＿

2 月 12 日現在。自宅近くの大通りは、毎日デモのために集まった群衆の声や、エンドレスで流れる民主化運動のテーマソングで賑やかです。
今のところ、大規模な武力弾圧は起きていません。しかし、放水車がデモ隊に水を浴びせる様子は、毎日各地から LIVE 配信されています。首都ネピドーでは、19 歳の女性が銃弾を頭に撃たれ、亡くなりました。

公務員は、今日も仕事をボイコット。いくつかの州では、州知事（軍事クーデター前）が「選挙で選んだ政権に戻るまで、公務員は全員お休み」と公式文書を出しました。病院からも消防署や銀行からも、職員が消えました。鉄道も飛行機も止まりました。そして３本指を空に築き上げて、デモ行進をしています。
希望に満ちた光景。民主化に続く道が、見える気がします。

・・・それでも過去に、こうした非暴力の民衆を、軍は凄惨なやり方で弾圧してきました。たくさんの人が逮捕され、傷を負い、亡くなりました。同じ歴史を繰り返さないためには、どうしても国外からの力が必要だと感じています。

これからも、ミャンマーに思いを馳せてください。日本政府に、ミャンマー国軍を政府と認めないでほしいと、民主国家として立ち直るための交渉をしてほしいと、伝えてください。私もこの地で、できることを探していきます。

工事現場の壁に貼られた、スーチー氏の解放を願うビラ。

軍事政権への抵抗を示す、三本指のマーク。こうした車が通ると、歩行者は三本指をあげて呼応する。

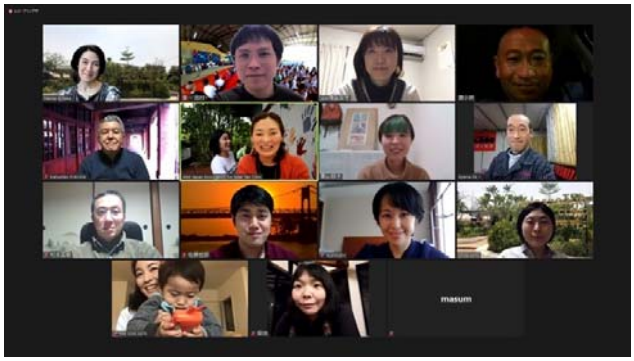
スーチー氏率いる NLD への支持を示す、赤色。党旗こそ出さないものの、赤い洗濯物を干して意思表示。

## オンライン活動報告会のご報告

2021 年 1 月 30 日（土）オンライン活動報告会を実施いたしました。

【主な内容】

・シンシア医師ビデオメッセージ
・現地派遣員有高医師より現状報告
・COVID-19 緊急支援の感謝状贈呈




日本各地・現地（メソト）・その他海外からオンラインで一堂に会す新しい形の報告会体験は非常に好評でした。

2020 年は現地派遣員緊急帰国、ミャンマー祭り・スタディーツアー・グローバルフェスタ中止など国内外での活動が困難な 1 年となりましたが、この報告会を通して一人一人がメータオ・クリニックを中心に繋がっているとあらためて実感することができました。

ご参加くださいました皆さま、ありがとうございました。

## 編集後記

今月の会報をそろそろ編集しようとしていた矢先、ミャンマーのニュースが入ってきました。JAM は、メータオ・クリニックを支援する団体であり、メータオ・クリニックは、ビルマ／ミャンマーからタイへ貧困や戦火を逃れてきた人々の病院です。

今回、寄稿してくれた、Nishi さんが友人と作成した 5 枚の図解は、WEB 上で瞬く間に多くの方々にシェアされていて BuzzFeed の記事にも掲載されました。**「悪夢のような毎日」を目の当たりにした日本人女性が、イラストで伝えたいこと**というタイトルで紹介されていますので、よろしければ検索してみてください。

日々、本業のコロナ関連業務に追われ、残業続きの私は、家に帰っても一刻も早くご飯を食べて寝たいのでテレビをほとんど見れていないのですが（本当は一日中テレビを見たいくらいテレビ大好き）、日本のテレビ等では、あまり紹介されていないように思いました。日本では想像もしがたいことなので簡単に説明するのも難しいです。でも、皆さんにもミャンマーに対する関心を深め、ミャンマー人たちの行動やその危機感を知ってほしいと思ってまとめたのが今月号です。

## 次号の予定

次号は、4 月下旬ごろ配信の予定です。

最新情報は、インスタ、ツイッター、ホームページでも、随時更新していきますのでぜひ、お時間があるときにご覧ください。

メータオ・クリニック支援の会(JAM)の活動を支援して下さり、心より御礼を申し上げます。JAM の活動は皆さまからの温かい寄付によって支えられ、院内感染予防活動、移民学校での啓発活動など様々なプロジェクト・設備投資を実施しています。
支援の輪が広がっていけるよう、どうぞ当会の Facebook もフォローして「いいね」や「リツイート」で応援してください。

当会では、都度の支援金の受け入れとともに、「1 日 10 円からの支援」を基本とし、継続的なご支援をお願いする賛助会員制度を用意しております。
【一般会員】3,650 円/年　　【学生会員】1,825 円/年　　【法人会員】36,500 円/年
当会ホームページにアクセスしていただき、お申し込みフォームから会員登録のうえ、指定の口座へのお振込をしていただきますと、賛助会員として登録させていただきます。詳しくは当会ホームページをご覧ください。

◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇

ＮＰＯ法人メータオ・クリニック支援の会
**Japan Association for Mae Tao Clinic（JAM）**

| | |
|---|---|
| 日本事務局宛て<br>**E** メール | support@japanmaetao.org |
| **JAM** ウェブサイト | www.japanmaetao.org |
| **Facebook** | Japan Association for Mae Tao Clinic (JAM)　で検索して下さい。<br>https://www.facebook.com/JapanAssociationforMaeTaoClinic/ |
| **Instagram** | https://www.instagram.com/japan_association_maetaoclinic/ |
| **Twitter** | https://twitter.com/japanmaetao |


※掲載されている全ての内容、文章の無断転載を禁止します。
◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇◆◇